JSiSE Research Report
vol.33,no.2(2018-7)

中国人日本語学習者向けのカタカナ語の学習
— スマートフォンの音声入力機能を活用して —

柴田陸杜[*1]，〇野崎浩成[*1]，梅田恭子[*1]，江島徹郎[*1]
*1 愛知教育大学教育学部

Learning Katakana Words for Chinese-Speaking JSL Students
– Using Voice Input Software on Their Smartphones-

Rikuto SHIBATA[*1], 〇Hironari NOZAKI[*1], Kyoko UMEDA[*1] and Tetsuro EJIMA[*1]
*1 Faculty of Education, Aichi University of Education

概要：中国人留学生対象に，カタカナ語 40 語を収録したテキストを作成し，iPhone の音声入力機能を活用して 2 週間の発音学習を行い，事前テストと事後テストを用いて学習前後の成績変化を分析した．テストの内容は，(i)イラストを見て発音して答えをカタカナで記入，(ii)単語の音声を聞いて答えをカタカナで記入する問題を計 20 問出題した．事後テストには事前テストで使用した語と同じ語を 8 語，新たに登場する語を 2 語出題することで，未学習の新規語彙にも学習者が対応できるのかを確認した．事前テストと事後テストの正解率を比較するとすべての問題において成績が 1.6 倍以上上昇している．(i)の発音問題に関しては，ほぼ 100%まで近づけることができ，(ii)のテストでは正答率が 2.5 倍上昇したことから，本研究で行ったカタカナ語の学習には効果があったと考えられる．

キーワード: 日本語教育，カタカナ語，中国人留学生，JSL（Japanese as a second language），スマートフォン，音声入力，語彙学習

1. はじめに

近年，日本では国際化社会の進展によりカタカナで表記される外来語が多用されるようになり，カタカナ語の使用は避けては通れなくなっている．例えば，コンピューター関連や，ファッション関連においても，数多くの外来語が使用されるようになった．特に，スマートフォンなどの情報機器の急速な普及や情報化社会の発展により，情報を専門としない留学生であったとしても，情報に関連する用語（ネットワークやインターネットなど）を日常的に数多く使用する機会が増えており，それらの語彙はカタカナ表記の外来語が大多数を占めている．一般に，カタカナは，①文字の画数が少なく，文字を弁別する手がかりが少ない，②極めて類似する字形（ソ，ンなど）も存在する，③日本語のカタカナ語の発音（例えば，オーバフロー）を聞いても，その語源となった英単語（Overflow）であると認識することは英語母語話者であっても難しい場合がある，さらに，④長音や促音を含むカタカナ語は，その発音や表記が難しいとされている，などの理由により，外国人留学生にとって，カタカナ語の習得は難易度が高いと指摘されている．よって，本研究では，カタカナ語の習得に着目することとした．

一方で，国際交流基金が 2012 年度に実施した調査によると，中国での日本語学習者数はおよそ 104 万 6 千人であった．これは，全世界の日本語学習者の 26.3%を占めており，中国は世界第 1 位の日本語学習者数を誇っている（国際交流基金 2013）．また，2009 年度に行われた調査（国際交流基金 2011）では，中国における日本語学習者数は約 82 万 7 千人であったことから，2009 年から 2012 年にかけて，およそ 26.5%，中国での日本語学習者が増加したこととなる（国際交流基金 2011, 2013）．このように，多くの中国人母語話者が日

本語を学んでいる現状を考慮して，本研究では，中国人留学生を対象に，日本語の語彙習得支援に取り組んだ.

一般に，中国語を母語とする人は漢字を普段から使いこなし知っているため，日本で使われている漢字であってもある程度の意味は理解できるが，ひらがな，ましてや，カタカナで表記される語彙の習得に苦労していると言われている．また，カタカナ語の習得において，中国語には長音や促音に該当するものが無いとされているので，それらの読み書きなど，使い方に関して難しく感じている，という留学生の意見も数多く耳にする.

そこで，本研究では，中国人日本語学習者を対象として，既に多くの人が所有しているスマートフォンの音声入力機能を利用して，日本語の先生がいない所でもカタカナ語を自主学習する方法を考案した．その方法を用いて，実際に留学生が語彙学習を行うという授業実践を行い，その教育的評価を行うことで，本研究が提案する手法の学習効果を検証した.

2. 先行研究の概要

本章では，中国人留学生のカタカナ語学習に関連する先行研究を概観する.

陣内（2008）は，日本語学習者のカタカナ語学習に関する意識調査を行った．その調査は日本国内で実施された.調査対象者は479名の外国人日本語学習者で，その母語の割合は,中国語49.7%,韓国･朝鮮語20.0%,英語4.2%，その他の言語26.1%であった．その結果，カタカナ語の習得に困難さを最も感じているのは，中国語を母語とする学習者であり，その一方で，英語母語話者は最も抵抗が少ないことがわかった．これは，学習者の母語が，カタカナ語の由来となっている英語とどの程度共通しているかが影響していると考えられる．また，カタカナ語学習への要望は，学習者の英語学習期間の長短と関連が見られた．特に中国語母語話者に関しては，英語学習歴を3～5年，6～9年，10年以上と3つのグループに分けて比較すると，期間が短いほど熱烈な学習要望が出た．近年のカタカナ語の急増ぶりと日本語語彙の語種割合の変化を考えれば，カタカナ語教育の充実は緊急の課題であると指摘している．よって，本研究では，中国人留学生を対象にカタカナ語の学習支援に取り組むこととした.

畑ほか（2010）は，留学生（中国語母語話者4名，韓国語母語話者6名）を対象に,ディクテーション（書き取り）による調査を行い，得られた誤用を分類・分析し，その問題点を調査した．具体的には，対象となった留学生に,カタカナ語を聞かせてそれを書かせた．その結果，誤用の割合を韓国語・中国語話者で比較した結果，韓国語母語話者は長音の誤りが最も多く66.2%と6割を超える一方，中国語母語話者は長音の誤りが38.0%と最も多いものの，濁音・半濁音の誤りも30.6%と多いことが示された．特に，語末の長音欠落，語頭の促音挿入など，誤用にも一定のパターンがあること，学習者の母語も誤用に影響すること，などが示唆された．よって，本研究では，これらの研究知見に基づいて，中国人留学生に誤用が多いとされる長音，濁音・半濁音などの誤用を回避することにも着目して教育支援を行う.

3. スマートフォンの音声入力機能を活用した発音学習

3.1 学習対象者

学習対象者は中国人留学生1名(女性)で,約10ケ月間日本に在住する大学学部に所属する研究生である．対象者の日本語能力については次の通りである．すなわち，これまでに，日本語能力試験N2の受験経験はあるが，まだそれには合格していない．よって，対象者は，N3（日常場面で使われる日本語をある程度理解できるレベル）であると推察される.

3.2 学習に使用した機器とソフトウェア

・中国人留学生本人が所有しているiPhone
・iPhoneのメモアプリ：音声入力機能を活用

3.3 学習日程

2016年11月24日　学習事前テスト
11月25日　カタカナ発音テキスト学習『開始』
　　　　　学習期間は2週間
12月 8日　カタカナ発音テキスト学習『終了』
12月 9日　学習事後テスト

3.4 学習方法

カタカナ語を学習するために，iPhone の音声入力機能を用いてメモアプリに単語を発音して入力する．正しく発音がされていれば正しく単語が表示され，間違った発音がされていれば間違った単語が表示される，と入力しようとした単語と比較してリアルタイムで正誤の判断ができる．

今回学習する単語は，対象者が学習したことのある「カタカナ」語の単語プリントの単語(117 語)から 40 語を抜粋した．その 40 語を収録したテキストを作成し，対象者に 2 週間，発音学習をしてもらう．また，学習の事前と事後に確認テストを行い，学習前後の成績の比較を行う．比較のために単語を[長音・促音・拗音・撥音・濁音・半濁音]の 6 種類のいずれかを含む単語に分類し，どの項目にも当てはまらないものは[なし]と分類した．

3.5 テキストの内容と学習方法

カタカナ語を iPhone の音声入力機能を用いて 2 週間，発音学習をする．

テキストには 40 語のカタカナ語を収録し，単語ごとに学習した日付と正誤を記入するワークシートを作成した(図１)．ワークシートの内容は単語のイラスト，イラストの下に単語名を記載した．発音のわからない単語は中日翻訳アプリを使用して日本語の発音を聞き確認を行うこととした．

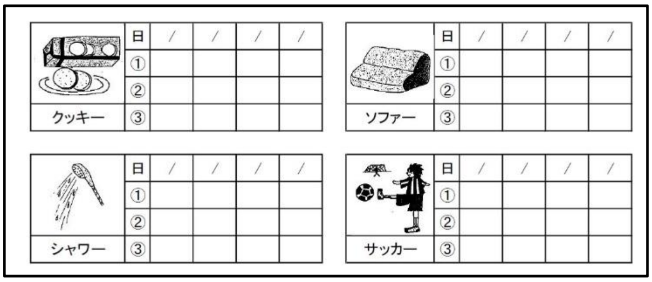


図１　学習時に使用したワークシート（一部分）

学習方法は，カタカナ語の学習テキスト（図２）を作成し，学習者に教示した．その具体的な学習方法は以下の通りである．

(1) iPhone のメモアプリを開く

(2) 音声入力で同じ単語を 3 回入力する

(3) 発音した単語と入力された文字が一致

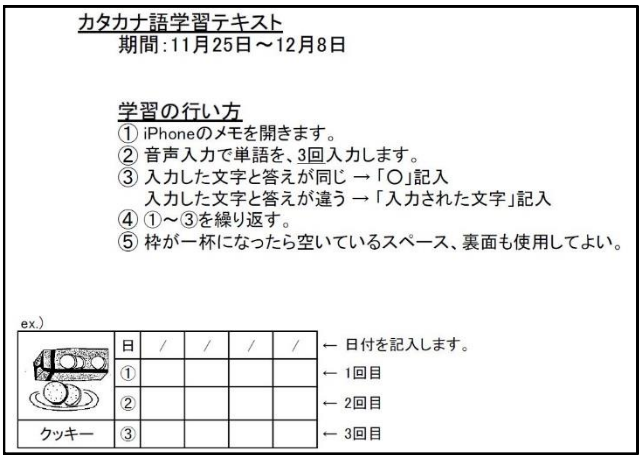
→「○」記入

発音した単語と入力された文字が不一致

→「入力された文字」記入

(4) 単語ごとに(1)～(3)を繰り返す

(5) 枠が一杯になったら空いているスペースまたは裏面に記入にする．



カタカナ語学習テキスト

期間：11月25日～12月8日

学習の行い方

① iPhoneのメモを開きます。
② 音声入力で単語を、3回入力します。
③ 入力した文字と答えが同じ →「○」記入
　入力した文字と答えが違う →「入力された文字」記入
④ ①～③を繰り返す。
⑤ 枠が一杯になったら空いているスペース、裏面も使用してよい。

ex.)

クッキー	日	/	/	/	/	← 日付を記入します。
	①					← 1回目
	②					← 2回目
	③					← 3回目

図２　カタカナ語の学習テキスト

図３．使用したアプリ　　図４　入力準備

図５　音声入力

図３には本研究で使用した「メモアプリ」，図４に「入力準備」，図５に「音声入力」のスマートフォンの画面を示した．

3.6 テストの種類

テストの内容は以下の(i)，(ii)の二種類であり，計20問出題した．各テストの時間は３分間である．

(i) イラストを見て発音して答えをカタカナで記入する(12問)

(ii) 単語の音声を聞いて答えをカタカナで記入する(8問)

(i),(ii)の全20問を出題した．(i)のテストは12種類の単語を表すイラストを提示し，それぞれのイラストに下に解答欄を設け，答えを発音し，記入をするように指示をした．その際，日本語母語話者の筆者が発音した語を聴き取り，聞こえたままの記録を書き取った．発音をしてから答えを記入するように指示したのは，学習前後で発音に変化が見られるのではないかと考えたためである．

(ii)のテストは(i)のテストとは別の単語を８問出題し，３回ずつ読み上げた．イラストは無く解答欄だけを設けた．繰り返し発音学習をすることでカタカナ語を聞き取る能力にも変化が見られるのではないかと考えた．

事前テストにはテキスト内の40語の内の20語を使用する．事後テストにはテキスト内の40語の内の18語を使用し，事前テストで使用した語と同じ語を８語使用する．さらに，新たに登場する語に対応することができるかを確認するために学習テキストでは使用しなかった新たな語（新規語彙）を２語用意した．

3.7 使用した単語

対象者が学習したことのある「カタカナ」語の単語プリントの単語(117 語)を学習者が発音や表記において苦手とする[長音(ー)・促音(ッ)・拗音(ャなど今回はァィゥェォを含む)・撥音(ン)・濁音(ダなど)・半濁音(パなど)]の６種類のいずれかを含む単語に分類し，どの項目にも当てはまらないものは[なし]と分類した．単語プリントの117語の内,[長音]を含むものが51単語,[促音]が15単語,[拗音]が12単語,[撥音]が32単語,[濁音]が47単語，[半濁音]が26単語，[なし]が12単語(重複する語あり)あった．なお，「ァ」「ャ」「ッ」など小字で表される仮名は[捨て仮名]と呼ばれるがそこには[促音]も分類されてしまうため，区別ができるように，本研究では「ァィゥェォ」を[拗音]として分類するように扱うこととする．

4. 結果と考察

4.1 事前テストの結果（実施日 2016 年 11 月 24 日）

(i) イラストを見て発音して答えをカタカナで記入する問題12問，（付録[3]）

解答形式は，語彙を示すイラストを見て，その語彙をカタカナで「記入」し，「発音」するものである．

記入: 12問中５問正解（41.7%）

発音: 12問中６問正解（50%）

表１　事前テスト(i)の問題と解答

No.	正解	記入	発音
①	レモン	レモン	レモン
②	コーヒー	コーヒー	コーヒー
③	シャツ	シャツ	シャツ
④	ナイフ	ナイフ	ナイフ
⑤	シューズ	シュズ	シュズ
⑥	ベッド	ヘード	ベド
⑦	フォーク	フォーケ	フック
⑧	ボール	ボール	ボル
⑨	スリッパ	スレバ	スリッパ
⑩	エレベーター	エリベーター	エレベーター
⑪	ティッシュ	テーレュ	テシュ
⑫	クッキー	くーキ	クッケ

表１に，事前テスト(i)の問題と解答を示した．網掛けの部分は解答以外の表記，発音をした単語である．

(i)の問題ではカタカナの表記ミスが多く目立った．これらの単語の記入，発音の解答を見ると，正しく発音することはできているが，表記をする際には誤った文字を書いている．また，⑪⑫の表記ミスは，ひらがなとカタカナの区別が完全にできていないために生じたミスである．次に多かった誤りは記入問題では[促音]，発音問題では[長音]についてのものであった．記入問題では，促音の長音変換が３件と多く見られ，発音問題でも長音の促音変換が１件見られた．

(ii) 単語の音声を聞いて答えを記入する問題 8 問，（付録[4]）

8 問中 2 問正解（25%)であった．

(iii) (i)(ii)のテストを総合した結果

事前テスト(i)と(ii)を総合した結果をみると，記入問題の正解数と正解率は，20 問中 7 問正解(35%)，発音問題の正解数と正解率は 12 問中 6 問正解(50%)であった．

単語の分類ごとの正解数と正解率をみると，

[長音]　12 問中 2 問正解（16.7%）
[促音]　6 問中 0 問正解（0%）
[拗音]　7 問中 1 問正解（14.2%）
[撥音]　2 問中 1 問正解（50%）
[濁音]　5 問中 0 問正解（0%）
[半濁音] 4 問中 1 問正解（25%）
[なし]　2 問中 2 問正解（100%）

であり，[促音]，[濁音]を含む単語の正答率は 0%であった．

このように，(i)(ii)のテストともにカタカナの表記ミスが多く目立った．正しく発音することはできているが，表記をする際に誤った文字を書いているため，頭の中で正しく音をイメージすることができているが，音と文字が正しく結びついていないと考えられる．また，単語の分類ごとの正解数を見ると，[促音]，[濁音]を含む単語については完全に正解した語は 1 問もなかった．

4.2 事後テストの結果（実施日 2016 年 12 月 9 日）

(i) イラストを見て発音して答えをカタカナで記入する問題 12 問，（付録[6]）

解答形式は，イラストを見て答えをカタカナで「記入」し，「発音」するものであった．

記入: 12 問中 8 正解（66.7%）
発音: 12 問中 11 問正解（91.7%）

(ii) 単語の音声を聞いて答えをカタカナで記入する問題 8 問，（付録[7]）

8 問中 5 問正解（62.5%)であった．

(iii) (i)と(ii)についての分析

(i)と(ii)について，その記入問題の正解数と正解率は，20 問中 13 問正解(65%)，発音問題の正解数と正解率は 12 問中 11 問正解(91.7%)であった．

単語の分類ごとの正解数と正解率をみると，

[長音]　11 問中 8 問正解（72.7%）
[促音]　7 問中 4 問正解（57.1%）
[拗音]　7 問中 3 問正解（42.9%）
[撥音]　3 問中 3 問正解（100%）
[濁音]　7 問中 5 問正解（71.4%）
[半濁音] 4 問中 3 問正解（75%）
[なし]　2 問中 2 問正解（100%）

であった．

4.3 事前テストと事後テストの比較

事前，事後テストの正解率を比較すると，

(i)記入: 41.7% → 66.7%　(1.6 倍)
(i)発音: 50% → 91.7%　(1.83 倍)
(ii) 25% → 62.5%　(2.5 倍)
総合: 40.6% → 75%　(1.85 倍)

となり，すべての問題において成績が 1.6 倍以上上昇している．(i)の発音問題に関しては正解率をほぼ 100%まで近づけることができ，さらに(ii)の問題でも正解率は 2.5 倍上昇しており，発音学習の効果があったと考えられる．また，発音学習をすることによって聞き取り能力が上達したと言えるだろう．

分類ごとの要素を含む単語の正解率をそれぞれ比較すると，

[長音]　16.7%　→　72.7%
[促音]　0%　→　57.1%
[拗音]　14.2%　→　42.9%
[撥音]　50%　→　100%
[濁音]　0%　→　71.4%
[半濁音]　25%　→　75%
[なし]　100%　→　100%

であった．なお，上記は，矢印の前の数字が事前の正答率で，矢印の後が事後の正答率である．
特に，[なし]については事前テスト事後テストともに全問正解であり，他に分類した要素が学習の弊害になっていることがわかる．

4.4 事前，事後テストで出題した単語の比較

カタカナ語を記入する問題は，事後テストに 20 語を出題し，そのうち，事前テストで使用した語と同じ語を 8 語出題した．すなわち，事前テストと事後テストで，共通問題として出題した単語の正答数を比較すると，以下の表の通りである．

事前記入: 8 問中 1 問正解（12.5%）

事後記入: 8 問中 6 問正解（75%）

同様にして, 発音問題については, 以下の通りである．

事前発音: 4 問中 1 問正解（25%）

事後発音: 4 問中 4 問正解（100%）

このように，発音学習の結果，発音問題に関しては全問正解することができた．記入問題に関しても正解数は増えたが, [長音]と[促音]の使い方についてどちらを挿入してよいか，あやふやなところがあり，長期的に調査を行うことで習得できるか見る必要がある．

4.5 事後テストで新たに使用した単語（未学習の新規語彙への対応）

学習しなかった新たな単語（以下，これを新規語彙と記す）への対応が出来るのかを確認するために，事前テストには出題せず，かつ，学習もしなかった単語２語（エスカレーター，ビスケット）を，新規語彙として事後テストに出題した．

新規語彙は，どちらも記入問題で誤りであった．

畑ほか(2010)で間違いが多いと言われていた長音・濁音・半濁音すべての誤りが見られた．「エスカレーター」は事前テストで出題した「エレベーター」と似ているが誤った記入をしてしまった．他にも「〇ー〇ー」のような似ている形の単語(コーヒー, ハンバーガーなど)が複数あり，事前テスト，事後テストともに長音についての誤りが見られなかったが，「エスカレーター」のみ長音の位置ズレ，欠落，促音の挿入と誤った表記をしてしまった．事前テストと事後テストの他の問題での[長音]についての誤りが事前テストでは 8 件あったが，事後テストでは 2 件まで減っており，発音学習で長音の感覚が身に付き使い方がわかってきていたと思われたが，新しい単語に対応することができなかった．発音学習を重ねることで似た形の単語への対応ができるようになると考えたが，本研究では明らかにすることはできなかった．

5. 全体的考察

事前テストで発音問題を実施したときは英語に近い発音が多くあったが，事後テストでは日本語に近い発音をするものがほとんどであった．テキストを発音学習する際に英語の発音をすると別の単語が入力されてしまうため発音学習を重ねるたびに日本語の発音に近づいていったと考えられる．

テスト全体をとして分類ごとに様々な誤りが見られたが，事前テスト，事後テストともに[撥音]についての誤りは 1 つも見られなかった．カタカナ，ひらがなの表記ミスについては事前テストでは計 10 件あったが，事後テストでは計 2 件となり減少したが完全になくなることはなかった．しかし，2 週間の学習でここまで減少させることができたのであれば，もう少し長期的に学習の経過を見ることで音と文字を正しく結びつけることができる可能性が考えられる．

事前テスト，事後テストともに記入テストで一番多かった誤りは[促音]についてのものであった．また，テスト全体を通して[促音]の前後では何かしらの誤りが起こりやすい可能性があることが分かった. さらに，長音の促音変換，促音の長音変換の誤りも多く見られた．長音の促音変換は，発音問題または聞き取り問題のみで見られ，促音の長音変換は記入問題のみでしか見られなかった．つまり，長音の促音変換は音の発生する場合にのみ起こり，促音の長音変換は音の発生しない場合にのみ起きていることが分かる．これらの傾向については学習対象者の人数を増やして，今後さらに検証を行う必要があると考えられる．

また，事前と事後の正解率を比較したところ，すべての問題において成績が 1.6 倍以上上昇したため，学習の効果があったと考えられるが，人数を多く，期間を長くすることでどのような結果が得られるか, 今後，さらなる研究に取り組む必要がある．

6. まとめ

本稿では，中国語母語話者を対象に，スマートフォンの音声入力機能を活用して，カタカナ語の発音と，カタカナ語を書く練習をする授業実践研究を行った．日本語指導者が外国人留学生を直接指導する時間は有限であり，十分に長く指導時間が確保出来ないという

制約があることから，自宅等でもできる自主学習が語彙習得には必要不可欠である．そこで，本研究では，大多数の留学生が自分で所持しているスマートフォンの無料アプリを活用したカタカナ語の書き取りと発音・聞き取りの学習支援を行った．その結果，事前・事後テストの成績を比較すると，正答率の上昇が見られ，学習効果が確認できた．今後の課題は，①今回は学習対象者が 1 名のみの個別学習指導であったため，今後は学習者を増やし，統計的な手法を使って教育評価を検証すること，②スマートフォンの音声入力機能の精度の確認，などが挙げられる．

謝辞

本研究の一部は，科学研究費補助金（課題番号 17H01994 および 26282052）の援助を得たことを感謝の意をもって附記する．

参 考 文 献

(1) 国際交流基金（2011）｢日本語教育機関調査｣『海外の日本語教育の現状　日本語教育機関調査・2009 年』

(2) 国際交流基金（2013）｢日本語教育機関調査｣『海外の日本語教育の現状　2012 年度日本語教育機関調査より』 http://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/

(3) 陣内正敬(2008) 日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育言語と文化, 11, 47-60, 関西学院大学

(4) 畑ゆかり・山下直子（2010）｢語彙指導を目指したカタカナ語の誤用に関する分析―留学生に対するディクテーション調査から―｣『香川大学教育実践総合研究』20,pp.25-32.

(5) 志村順子（2014）｢中国語を母語とする JSL 学習者のカタカナ語表記習得過程に関する断続的研究｣，『言語と文明』, 12,pp51-68.

(6) 陳西梅・坂西友秀（1992）｢中国人留学生の日本語学習における困難 ―漢字・ひらがな・カタカナの習熟―｣，埼玉大学紀要, 41-1,pp37-46.

(7) 山崎誠（2012）｢中国人学習者の日本語の長音表記における誤用の一考察―中国語と日本語の漢字音の対応からの応用―｣，第九回国際日本語教育・日本研究シンポジウム

(8) 崔云成（2016）｢韓国人日本語学習者向けのカタカナ外来語の辞書づくり ―重要語の選定と長音の習得を中心として―｣，愛知教育大学大学院教育学研究科情報教育領域修士論文

付録

[1]事前テストの結果

	No.	正解	解答	発音
1	①	レモン	レモン	レモン
	②	コーヒー	コーヒー	コーヒー
	③	シャツ	シャツ	シャツ
	④	ナイフ	ナイフ	ナイフ
	⑤	シューズ	シュズ	シュズ
	⑥	ベッド	ヘード	ベド
	⑦	フォーク	フォーケ	フック
	⑧	ボール	ボール	ボル
	⑨	スリッパ	スレバ	スリッパ
	⑩	エレベーター	エリベーター	エレベーター
	⑪	ティッシュ	テーレュ	テシュ
	⑫	クッキー	くーキ	クッケ
2	⑬	チョコレート	チョコレード	
	⑭	ジュース	シュース	
	⑮	サッカー	サカー	
	⑯	カメラ	カメラ	
	⑰	ソファー	スファ	
	⑱	スプーン	シベン	
	⑲	コップ	コッペ	
	⑳	スーパー	スーパー	
			○7	○6

[2]事後テストの結果

	No.	正解	解答	発音
1	①	スプーン	スプーン	スプーン
	②	マッチ	マッチ	マッチ
	③	ティッシュ	ティーシュ	ティッシュ
	④	エスカレーター	エスカーレッタ	エスカレーター
	⑤	コーヒー	コーヒー	コーヒー
	⑥	ラケット	ラキッド	ラケド
	⑦	シャワー	サッワー	シャワー
	⑧	ハンバーガー	ハンバーガー	ハンバーガー
	⑨	チューリップ	チューリップ	チューリップ
	⑩	タオル	タオル	タオル
	⑪	ペンギン	ペンギン	ペンギン
	⑫	ジュース	ジュース	ジュース
2	⑬	ベッド	ベッド	
	⑭	スパゲティ	スバゲティ	
	⑮	フォーク	フォック	
	⑯	サッカー	サッカー	
	⑰	クリスマス	クリスマス	
	⑱	ソーセージ	ソーセージ	
	⑲	ビスケット	ピスゲット	
	⑳	チョコレート	チョコレート	
			○13	○11

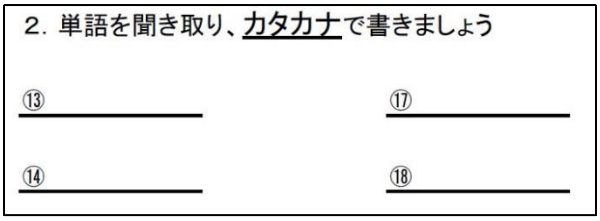
なお，④と⑲が未学習の新規語彙である。

[3]事前テスト（記入・発音）12 問，

最初の 4 問のみを示した

[4]事前テスト（単語の音声を聞いて答えを記入する問題）

8 問，その一部のみを示した



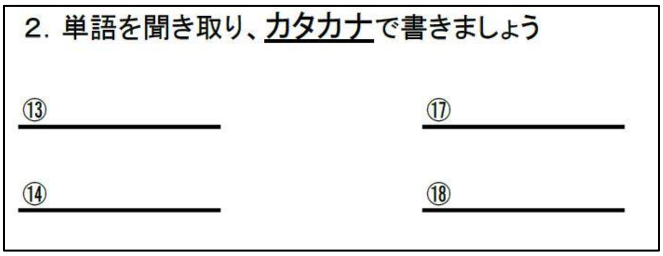
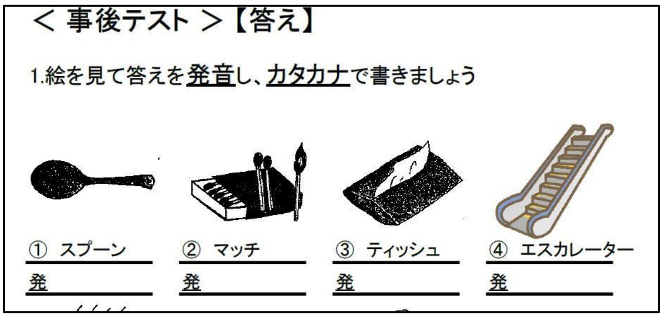
[5]事前テスト（答え）の一部

[6]事後テスト（記入・発音）12 問

最初の 4 問のみを示した

[7]事後テスト（単語の音声を聞いて答えを記入する問題）

8 問，その一部のみを示した



[8]事後テスト（答え）の一部